

6 弓削刀子について

E地区4号中世土墳墓出土の弓削刀子は、共伴した土器の年代から13世紀代のものであるが、国内でこれまで弓削刀子が6例発見されている（表20）。最古例が12世紀の白磁などと共伴し、13世紀後半の土墳から切られた1号土墳墓出土の北九州市長野A遺跡例で、最新例が北海道余市町大川遺跡例が15世紀前半である。北海道の2例は新聞記事によるものであるために詳細が不明である。最新例としては、東京都港区弓具店経営の長谷川康則氏が古道具屋から入手された例（第215図）があるところから、すくなくとも近代までは存在し使用された可能性をもっている。

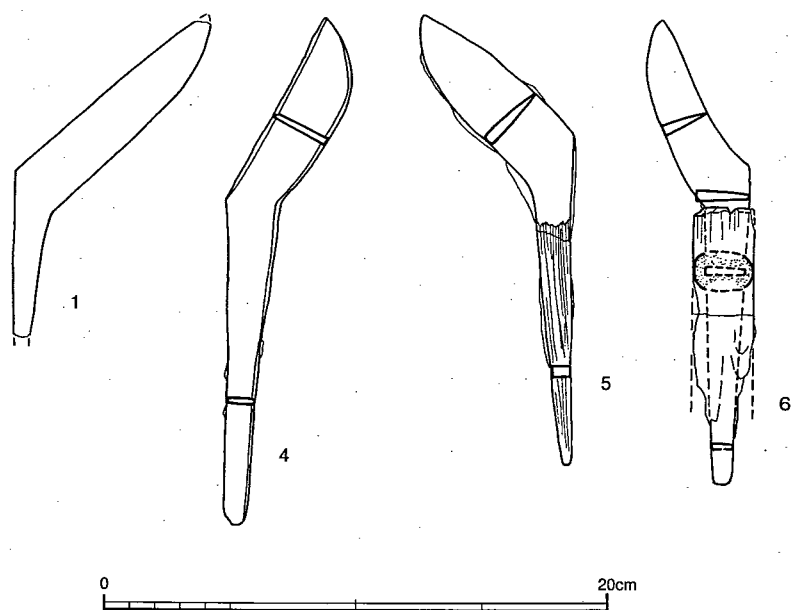
これらの弓削刀子で共通する形態的特徴は、刃部と茎部が直線的でなく鈍角に屈曲することにあるが、その角度にも差があり最低が長野A遺跡例の123度、最大が小山第Ⅱ遺跡の152度であり、時期による変化ではなさそうだ。

刃部については、直刃が大川例と小山第Ⅱ例、外湾刃が長野A例、内湾刃が徳永川ノ上例である。しかし、側面から見た湾曲は、徳永川ノ上例と長谷川例のみで、他を実見していない。ただし、小山第Ⅱ例のみ片刃と報告されていることから、使用時の柄の握り方が限定されてくる。小山第Ⅱ例は、片手で刃を上（親指側）にして握る場合が左手でなければ削る作業ができず、逆手（刃を小指側）に握る場合が右手に限定される。このように考えると、徳永川ノ上と

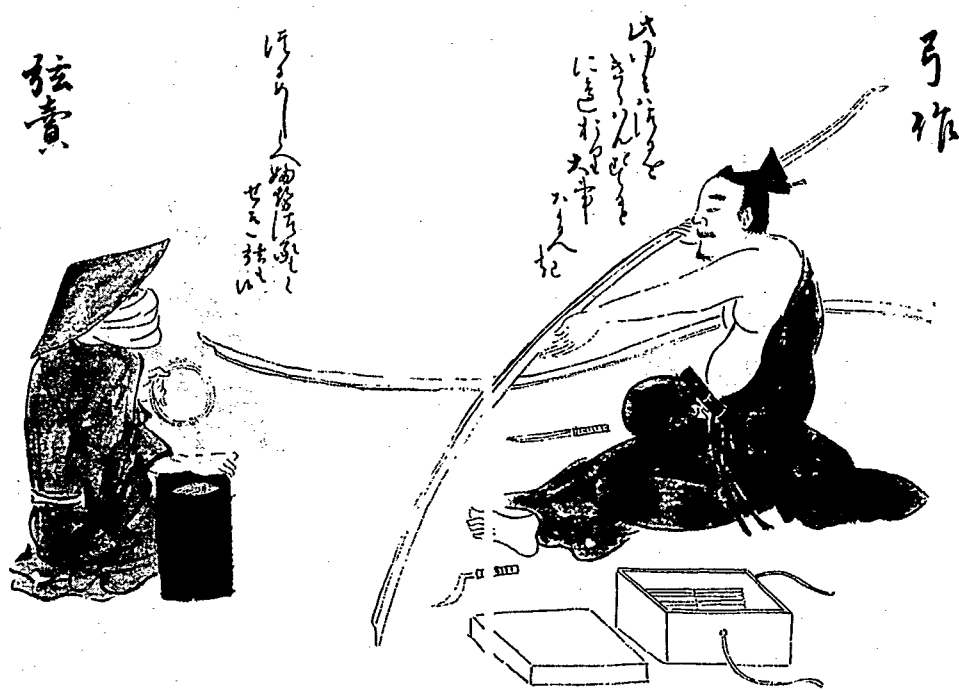
表20 弓削刀子一覧表

単位 cm

No	遺 跡 名	所 在 地	遺 構	時 期	長さ 刃+茎	刃 部	刃茎角	備 考	文献
1	大 川	北海道・余市町	F29区I層	15c前半	10+6.7	直刃	132°		1
2	勝 山 館	北海道・余市町		中 世					2
3	カリンバ2	北海道・恵庭市	AP-1土墳墓	中 世	8.7+7.1	外湾刃	142°	太刀・刀子・銅銭 釘状鉄器・環状鉄	3
4	小 山 第 2	長野・駒ヶ根市	1号掘立柱建物	13c末～ 14c前半	8.5+13	直刃	152°		4
5	長 野 A	北九州市小倉南区	1号土墳墓	12c	7.6+13.2	外湾刃	123°	白磁・鏃・刀子	5
6	徳永川ノ上	福岡・豊津町	4号土墳墓	13c	6.8+12.6	内湾刃	146°	青磁・小皿共伴	
7	長谷川康則氏所有	東京・港区		現 代	約 6.2+8.3	直刃 (側湾)	約 157°		6



第213図 弓削刀子集成図 (1/3)



第214図 弓作、弦責の図(「日本庶民生活史料集成第三十巻」
「七十一番歌合」)

長谷川氏例の側面反りは、徳永川ノ上例が小山第Ⅱ上例が小山第Ⅱ上例の逆となり、逆手ならば左利き、長谷川氏例が右利きということになる。

ところで、これらの刀子が「弓削刀子」であるとしたのは、「小山第Ⅱ遺跡」の報告書（註4）であるが、これによると「日本庶民生活史料集成第三十巻」に収録されている室町末期作の「七十一番歌合」の「弓作」師（第214図）の図に刀子2点が描かれ、その一方が同形態の刀子であったことによる。第214図の「弓削刀子」の刃部が内湾しているところが、徳永川ノ上例と同一で、「七十一番歌合」が室町末期作であれば、時期の判明している4例の総てが古くなる。

柄の長さは、長谷川氏が12.4～13.0cmであることから、片手で握って使用することが確実にあり、徳永川ノ上例も茎より長い約12cmの柄が復原できる。

そこで、この刀子が現在も使用されているのか、又は「弓作」道具として伝世されていないかを、宮崎県教育委員会を介して都城市教育委員会に照会していただいたところ、弓職人の森茂夫氏から貴重な資料とご教示を得た。資料とは、都城市の弓作りではこのような刀子を使用しないが、先に紹介した長谷川氏が類似刀子を所有されていることと、その写真を提供していただいた。

さらに、森氏によるとこのく字形に屈曲した刀子は、現在でも宮大工の彫刻用として使用されているものの、刃先が厚いことから竹を「こそげる」ことはできても弓作りに適していないという。弓作りには、戦前まで鉋を使用していたが現在「台鉋」や小刀で削るという。したがってく字形に屈曲したこの刀子を「弓削刀子」と断定しない方がよいとご教示を得た。このことから、この刀子を弓作りに使用したとすれば、堅い竹を荒削りする時に利用するぐらいであろう。

この弓削刀子については、九州歴史資料館の横田義章氏及び宮崎県都城市教育委員会桑畑光博・横山哲英両氏と都城市在住の森茂夫氏、さらに北海道余市町大川遺跡調査事務所の宮宏明氏に資料の提供とご教示を得た。

（柳田）

註

註1 余市町教育委員会「余市大川遺跡遺物整理状況記者発表、1995、11、20

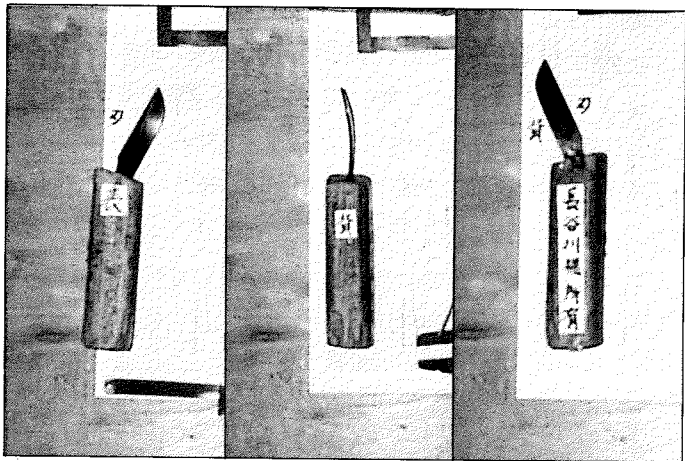
註2 北海タイムスの1995、11、21 付記事

註3 「カリンバ2遺跡」『北海道恵庭市発掘調査報告書』1987

註4 長野県教育委員会「小山第Ⅱ遺跡」1985

註5 「北九州市教育文化事業団「長野A・E遺跡調査概報」『北九州市埋蔵文化財調査報告書』24、1984

註6 宮崎県都城市の弓職人森茂夫氏のご教示。



第215図 長谷川氏所有弓削刀子（森茂夫氏提供）